

3. 次の取引を仕訳しなさい。ただし、使用する勘定科目は材料・仕掛品・製造間接費・材料消費価格差異とする。

(1) 直接材料として 100 個、間接材料として 30 個消費した。なお、予定価格 600 円／個を用いた。

(2) 実際払出価格は 620 円／個であった。そこで、予定価格による消費額と実際価格による消費額との差額を、材料消費価格差異勘定に振り替えた。

	仕		訳	
	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)				
(2)				

材料費 第3問 模範解答

1.

(1)	560,000	円
-----	---------	---

(2)	600,000	円
-----	---------	---

2.

(1)	1,900,000	円
-----	-----------	---

(2)	520,000	円
-----	---------	---

3.

	仕		訳	
	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	仕掛品 製造間接費	60,000 18,000	材 料	78,000
(2)	材料消費価格差異	2,600	材 料	2,600

【解説】

1. (1) $(250 \text{ 円}/\text{個} + 30 \text{ 円}/\text{個}) \times 2,000 \text{ 個} = 560,000 \text{ 円}$
 (2) $(250 \text{ 円}/\text{個} + 30 \text{ 円}/\text{個} + 20 \text{ 円}/\text{個}) \times 2,000 \text{ 個} = 600,000 \text{ 円}$
2. 原料とは、直接材料の別名である。

原 料	
月初有高 200,000円 当月仕入高 2,000,000円	当月消費高 1,900,000円 → 直接材料費 月末有高 300,000円

補助材料	
月初有高 50,000円 当月仕入高 500,000円	当月消費高 520,000円 → 間接材料費 月末有高 30,000円

3.

材 料	仕 掛 品
実際価額 130個×@620円 80,600円	100個×@600円 60,000円
予定価額 130個×@600円 78,000円	製造間接費
差異 2,600円	30個×@600円 18,000円
	材料消費価格差異 2,600円